



# 飽食大国！日本

には飢餓で苦しんでいる人が何億人もいると考えると、ちょっと考えさせられます。

## 日本栄養専門学校

## 日本栄養専門学校

## みかしほ学園

### 「挨拶」と「礼儀」を考えなさい

大量生産・大量消費が進む中で、食べ残し等の大量廃棄も進んできました。輸入までして食べ残す日本となってきたのです。今の日本では大切な食料が日々あちらこちらで捨てられています。（東京では糖尿病のカラスがいるらしいとか。）日本人一人あたり約600キロカロリー分の食料が無駄になっているという試算もあり、これはご飯に換算すると大人のお茶碗で2～3杯分になります。世界

時<sup>とき</sup>の言葉として「いただきます」「「おちそつさま」という素晴らしい言葉があります。「頂きます」とは「私の命のために動植物の命を頂きます」の意味からで、「御馳走様」は馳走になりましたのことです。昔は客人を迎えるのに走り回って獲物をとつてきてもなしましたが、そんな命がけの働きに客人が「有難う」と心からの感謝



さわやかな挨拶と言葉づかいは、清新な気風を吹き込み、明るくないやかな人間関係をつくります。このオアシスづくりを忘れてはならない。人の心と心を結ぶ愛の架け橋は、挨拶によって作られます。

ようつしゃいます。  
りがとう（「j」ざい）います。  
つれいいたします。  
みません。

### 家事参加してこますか？

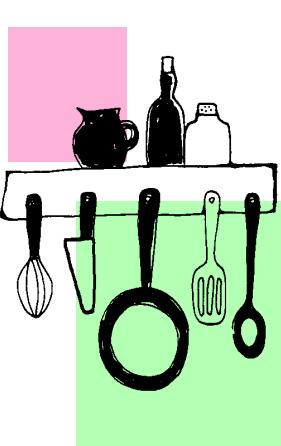
日本栄養専門学校

教務部 北井 宏幸

挨拶は大きな声でハッキリとおじぎは正しく、気持ちよく言葉づかいは正しく、丁寧に礼儀は人間関係の潤滑油です

日本の人たちは海外の子どもに比べて家の手伝いをしないようです。言い換えれば日本の親たちが家事をさせていないと言つことがあります。日本の子どもが忙しそうのが、親が甘すぎるのか、子どもに遠慮しているのか、いずれにしてものままでは生活能力の低下につながります。

細かい布はすきまが少ないとすきまを通して何かを求めるというわけです。そして、わずかなう望み願いも表すようになります。やりとげる可能性が少ないからといつてしり「みせず、希望を大きくもつて挑戦して行こうではありませんか。



大きな<sup>のぞみ</sup>望みを胸に  
**希**

一つの意味があります。ひとつは「希望」「希求」など、いつもたい、あれがほしいといった望や願い。もうひとつは、少なかつたり、薄かつたりすること。数が少ないからこそ出でくる値打ちは「希少価値」高い山の上で酸素が足りないのは「空気が希薄」と言いますね。「希」は巾（ぬの）と々（糸が交わる）を組み合わせた字。織り目

のままでは飽食大国日本が悪い意味での食文化として残っています。食に携わる人間として一度日本の食文化を見直してみてはいかがでしょうか。

なしゃりん<sup>の</sup>の皮をむけない若者が増えているとか、切り身の魚が海を泳いでいる絵を描いた幼稚園児の出現が十数年前のこと。このころの子どもたちが今専門学校生ぐらいの年代にさしかかっているのです。これは家庭で料理を作る機会が少なくなつたということでしょう。休日といえど外に遊びに出かけ、正月や祭日の食事を家で作る人も少数派。田舎は家族そろって食事をすることも少なく、休日は外食ということになれば

の文化や歴史を受け継ぐのでしょうか。豊かで便利な世の中になつたもの、これはまさしく色々な場面で効率を最優先し手間をかけることを大事にしなくなつてきたのかもしれません。今一度手間をかけるということを見直し、親子のコミュニケーションをはかつてみてはどうですか。

細かい布はすきまが少ないとすきまを通して何かを求めるというわけです。そして、わずかなう望み願いも表すようになります。やりとげる可能性が少ないからといつてしり「みせず、希望を大きくもつて挑戦して行こうではありませんか。